
"幼なじみの大切な君へ"

ラウ`

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

” 幼なじみの 大切な君へ ”

【Nコード】

N 6 4 4 5 D

【作者名】

ラウ`

【あらすじ】

幼なじみの、大切な君へ素直な気持ちを手紙のつもりで書きました。

「幼稚園」があたし達の

『出会い』だったね。

小さい頃、いっぱい遊んだよね。

無邪気に

幼ないなりにたくさんふざけあったね。

どんな気持ちで

君と一緒にいたのかな？

過去に戻らないと分かんないや。

だけどね

ずっと大切な友達ってそう思ってたかな

違う小学校にでも

休みの日で都合があった日は

逢って遊んでたよね

それがすごい楽しみで

別れの時間になれば寂しくて。

「大好きー」

「ずっと友達だよー」

これが癖言葉だったね（笑）

1日に何回も言い合ってたよね

中学生になるって時に

あたしは名古屋から埼玉まで

お父さんの仕事の都合で転勤…

今までのように簡単には会えないんだと思うと
すごく寂しくて。

逢えなかったから
手紙やFAXや電話
たくさん？したよね

あたしは

中学生生活の半分は
ずっと君が一番だって

あたしを理解してくれるのは君だって
そう思ってた。

君の事もあたしが一番分かって理解してあげられるんだってそう思
ってた。

けどさあ、あたし達の距離が離れると違くなるんだよね。

高校の事だって。

あたしはまだ入試が終わってない時に
君は合格して。

でもそれを聞いたのは

君からじゃなくて

お母さんから。

思ったよりショック？だったのかな

やっぱり一緒に喜びたかったよ。

君が嬉しい時なら一緒に笑いたいし
君が悲しい時なら一緒に泣きたいよ

だって普通に考えて
いつもそうだったじゃん？

あたしにだって

大切な友達くらいできるし
君もだって

大切な友達くらいできるよね

出会ったのは絶対運命で

離れたのにはきつと何かと運があったからなんだよね。

神様が試したのかな？

距離があつてもあたし達なら
ずっと……って

いつからかな？？

きつと中学2年くらいからかな
君より大事な友達ができたって
気づいたの。

本当は友達の位置とか
比べたくないんだけどね。

その人その人との付き合いの深さがあるんだよ。

その人その人の何かに

あたしは引き寄せられた？んだもん

もちろん君や君の家族に

大切にしてもらってるって

分かってた。

だけごめんね。

君がいない？君にすぐ逢えない環境に慣れてきたっぽくて
あしの中の君の存在の大きさ
昔より小さくなってたのかもしれないね

手紙にこう書いてたね…

あなたにとって私はどんな存在ですか？

小さな頃からの本当の友達の私はいなくて、幼なじみな私なの？
って。

こんな事言わせてごめんね。

あたしにとって君は

古くからの友達…？

古くからの幼なじみだよ。

ただの幼なじみじゃない、

大事な古友？

ごめん。感情に合ってる言葉が出てこないからこんな事しか言えないけど。

小さな頃からの本当の友達の君はちゃんとあたしの中に、心の奥にいるから。

君の事ちゃんと理解してあげられたらな
って思うよ

だから無理しないで

話ならいつでも聞くから。

話してくれなきゃ

伝わるのも伝わらないし理解できないよ

理解されるよりは理解しなきゃ

信じられるよりは信じなきゃ
愛されるよりは愛さなきゃ。

もっと周りを見てみたら？

自分という自分を、自分らしさを
見つける第一歩になるんじゃないかな？

どんなにつらい毎日でも
気づかないだけで

幸せは絶対あるって。

つらい事とか悲しい事が目立って
なかなか笑えないのかもしれないけど
ちゃんと君のそばには

幸せがあるって事

忘れないでね。

幸せはたくさん転がってる。

だけどそれに気づかなくて逃がしちゃったりするから
不幸って思っちゃうんだよ。

幸せは自分でつくるものなんだよ。
待ってても何も起きない

それに君は一人じゃないよ
どんなに遠く離れてても
同じ空の下にいるから。
忘れないでいて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6445d/>

“幼なじみの 大切な君へ”

2010年10月24日04時07分発行